

## フランソワ・ルリエーヴル軍曹への賛辞

マチュー・セゲラ

フランス戦没者記憶協会日本代表

「スーヴニール・フランセ」というのは、共和国大統領後援の下に置かれた公益団体の一つです。フランス人と外国人とを問わず、自由と権利の戦士としてフランスのために勇敢に戦い、命を落とした者たちのことを、いつまでも記憶し続けることをその使命としています。「スーヴニール・フランセ」の活動は、彼らの墓地および記念碑の維持管理—これにはフランス総領事館のご協力をいただいておりますが—、共和国の重要な価値を次の世代に引き継ぐこと、名誉ある戦いの場で命を落とした彼ら彼女らの勇気に敬意を表するための記念行事を挙げる、などです。

広島では、フランスと「スーヴニール・フランセ」とは、幸運にも原野昇教授という大事な友人を持っています。教授の研究とフランスへの探求旅行によって、ここに眠る7人の兵士の歴史が明らかにされました。教授は子孫探しのために渡仏し、子孫に会い、現地で、ここに眠る兵士の一人の追悼記念式が行われたことにも貢献されました。「スーヴニール・フランセ」協会を代表して、原野教授に深甚の謝意を表します。

2021年11月19日、日本とフランスが協同して記憶継承を図る本日の行事に際し、ここに眠る7人の兵士の一人、フランソワ・ルリエーヴルの経歴を読み上げさせていただきます。

フランソワ・ルリエーヴルは、1870年3月9日、メヌ・エ・ロワール県のアンジェで生まれました。父親のピエール・ルリエーヴルは、トレラゼのスレート石切職人で、母親のアデライード・ジョルジェは専業主婦でした。質素な家庭で、父親は読み書きができませんでした。息子のフランソワも父親同様、石切職人になりました。1891年、21歳で、フランソワ・ルリエーヴルは軍役に服し、アンジェとナントの間にあるアンヌニ駐屯地の第66歩兵連隊に入隊しました。1894年に軍曹の位で兵役を終了しました。しかしこの青年は軍隊を離れることを望みませんでした。おそらく未知の世界を知りたくて、海外部隊を希望し、同年、海軍第4歩兵連隊に入隊しました。そこで彼は昇進を続け、下士官になりました。彼はその後すぐに、インド洋上のフランス領・レユニオン島に派遣されました。そこから、彼の連隊はマダガスカル島に展開し、1895年の植民地戦争の時までそこに留まりました。この戦いで、フランソワ・ルリエーヴルは、マダガスカル記念勲章を授与されました。1897年に、コーチシナのフランス植民地部隊に配属され、そこで3年間過ごしました。1900年6月、彼の連隊は、中国における8か国連合部隊に加わりました。そこで、フランス部隊は、日本を初めとする7か国の部隊と共に、北京で包囲されている外国公使館を解放し、義和団を鎮圧することが任務でした。ルリエーヴル軍曹は参戦しましたが、負傷か病気か詳細は不明ですが、港湾都市広島の病院で治療を受けることになりました。この町で1900年9月19日に命を落としました。以来この町で安らかに眠っています。